

## 航空機SAR Pi-SAR2による剣岳東斜面の二つの山岳氷河の観測とその解釈

## Observations and Interpretations of Two Mountain Glaciers on the Eastern slope of Mt. Tsurugi by Pi-SAR2 airborne SAR

\*古屋 正人<sup>1</sup>、福井 幸太郎<sup>2</sup>、児島 正一郎<sup>3</sup>、松岡 建志<sup>3</sup>

\*Masato Furuya<sup>1</sup>, Kotaro FUKUI<sup>2</sup>, Shoichiro Kojima<sup>3</sup>, Takeshi Matsuoka<sup>3</sup>

1.北海道大学大学院理学研究院自然史科学部門、2.立山カルデラ砂防博物館、3.情報通信研究機構

1.Department of Natural History Sciences Hokkaido University, 2.Tateyama Caldera Sabo Museum,

3.National Institute of Information and Communications Technology

福井・飯田(2012)は、立山、剣岳周辺で日本にも氷河が現存していることをGPSを用いた流動速度観測とアイスレーダーを用いた氷厚観測から示した。一方、氷河の観測は一般に現地での観測が困難であり、世界的には様々な衛星あるいは航空機を用いたリモートセンシング技術が用いられてきた。日本の北アルプスの場合は、世界の山岳氷河に比べて規模が小さく、また勾配も急であること等の問題で、現業的に行われている衛星リモートセンシング技術の適用は必ずしも容易ではない。われわれは、NICTとの共同研究として、航空機SARを用いた観測を2013年以降3回行って、各時期の数値地形図を作成するとともに多偏波観測を行った。それらの結果について紹介する。

キーワード：剣岳、三の窓氷河、小窓氷河、Pi-SAR2、偏波SAR

Keywords: Mt. Tsurugi, Sannomado glacier, Komado glacier, Pi-SAR2, Polarimetric SAR